

定期報告(ウルグアイ内政・外交:2016年3月)

【内政】

1 政府、議会の動向

- (1) 1日、第2次バスケス政権が発足して1年が経過したことを受け、バスケス大統領がテレビ・ラジオを通じて国民に向け2015年度の施政報告と2016年度の施政方針について演説した。演説の概要は次のとおり。
 - ア 貧困削減、乳幼児死亡率の低下、制度的安定性、繁栄指数、観光、情報技術の分野でウルグアイは国際機関等から高い評価を得た。
 - イ 包括的弱者ケア制度(SNIC)の創設、労使紛争の解決へ向けた取組、インフラ整備計画の策定、就学前教育及び英語教育の拡充、感染症及び自然災害対策、住宅支援、警察機構改革等を行った。観光業が発展し国の重要産業となった。輸出は前年比で減少したものの減少率は南米で最も低い。
 - ウ アルゼンチンとの関係が改善した。アルゼンチンを出航する船舶に対するウルグアイの港での貨物積み替え作業を禁止する措置の解除、ウルグアイ河及びラプラタ河の環境モニタリング研究所の設置決定、ウルグアイの液化天然ガス再気化事業で生産された余剰ガスのアルゼンチンへの輸出に関し合意に至った。また国連では半世紀ぶりに安保理非常任理事国となった。UNASUR輪番議長国としてコロンビア・ベネズエラ国境紛争の調停及びコロンビア政府とFARCの和平交渉に功があった。
 - エ 2016年度、政府は投資適格格付けの維持、インフレ抑制、前年度に策定した賃金方針の維持に努める。SNICのもと0～3歳児、障害者、高齢者へのケアサービスの提供を始める。住宅、緊急医療、教育、治安体制の拡充に取り組む。ウルグアイ産品の差別化と市場開拓、ロボット及び電子産業、地場産業、観光業の振興を行う。エネルギー輸出国への転換を模索する。また官民合同のインフラ整備計画を実行する。
- (2) 1日、2016年度通常国会が開会、下院議長がアレハンドロ・サンチェス(FA・MPP)からヘラルド・アマリジャ(国民党・Alianza Nacional)に交代した。アマリジャ下院議員はウルグアイ史上初めてプロテスタントとして下院議長に就任。16年度国会会期は12月15日まで。
- (3) 14日、マルタ・ハラ燃料アルコールセメント公社(ANCAP)新総裁が就任した。ANCAP総裁人事は8日に上院で承認されたが、イグナシオ・ベルティ(FA)及びディエゴ・ラバ(国民党)の2名の理事人事は延期された。野党が上院ANCAP財務・経営調査委員会の終了後も更なる調査及び司法判断を要求し、与野党でコンセンサスが得られないため。政府・与党はANCAPの理事不在状況を受け、野党側からの国営公社幹部選出をとりやめる可能性を検討中。

2 政党の動向

(1) 社会党中央委員会委員長選挙

13日、与党拡大戦線(FA)を構成するウルグアイ社会党の中央委員会委員長選挙が実施された。立候補者はモニカ・シャビエル上院議員(前FA総裁)とダニエル・オレスケル前社会開発相(ムヒカ政権)で、シャビエル上院議員が僅差で次期社会党中央委員長に選出された。

(2) FA 総裁選挙

13日に開催されたFA全国総会において、アレハンドロ・サンチェス(前下院議長)、ハビエル・ミランダ(大統領府人権事務局長)、ホセ・バヤルディ(元国防相)、ロベルト・コンデ(元外務次官)の4名がFA総裁候補に選出された。総裁選は16年5月29日実施。これら4候補に加え、女性候補の不在を問題視する党員らによるベアトリス・ラミレス前社会開発省国家女性機構理事長擁立の動きがある。

3 労働関係

14日、バスケス大統領がペレイラ全国労働総同盟(PIT-CNT)総裁及びアブダラ同書記長と会談した。会談はPIT-CNT側の要請に応じたもの。大統領府によれば双方は雇用及び実質賃金の水準を保つこと、インフレ及び消費物資の過度な値上げの抑制が必要との点で一致した。また、ILO158条に基づく労働者解雇規制法の細則制定、障害者雇用政策の改善、労働者の住居環境、人権、家庭内暴力、労組の自由等を議論するワーキンググループを設置することで合意した。会談後の記者会見でペレイラ総裁は、政府側は2015年6月に策定した賃上げ方針を維持しつつ、購買力の維持及びインフレ抑制のためあらゆる施策を行うと通知してきたと述べた。またアブダラ書記長は、前向きで今後に期待のもてる会談になったと述べ、バスケス大統領が政・労・使労働・生産性審議会の設置を求めるPIT-CNTの要請を受け入れたことを高く評価した。

4 軍政期行方不明者問題

- (1) 22日付エル・pais紙によれば、バチカン法王庁はウルグアイに対し同国の文民・軍部独裁体制期(1973~85年)に関する文書を公開する用意がある。法王庁の意向は在バチカン・ウルグアイ大使を通じ、軍政期における人権侵害を調査している大統領府「真実と正義」委員会(政令により2015年5月設置)に伝えられた。軍政期の77年には、サレジオ会所属のシルバ神父がアルゼンチンで誘拐され3年間行方不明になった事件が発生している。また行方不明者家族からの告発を取り扱っている弁護士によれば、軍政期、在ウルグアイ・バチカン大使館は行方不明者家族と非公式に接触していた。「真実と正義」委員会は現在、カネロネス県の軍施設内で行方不明者の遺体捜索を行っている法人類学者チーム(GIAF)と毎週会合している。
- (2) 28日付で共和国大学人文教育学部は、大統領府との協定に基づいて文民・軍部独裁体制期(1973~85年)における行方不明者の遺体捜索を行っている同学部の法人類学者チーム(GIAF)の研究室に、何者かが入室の許可を得ずに侵入したこと、同研究室内に保管されている物品資料の何点かが紛失していることを確認した旨プレスリリースを発売した。同学部は警察に被害届を提出し、科学警察及び情報当局に捜査を依頼、GIAFの調査活動は通常通り行われると発表した。報道によれば、盗まれたのは研究室内コンピュータの外付ハードディスク及び文書類。また何台かのハードディスクは初期化されており、更に研究室の壁の地図にはGIAFメンバーの居宅住所がマークされていた。加えて、×印の入ったGIAFメンバーの写真が置かれていた。研究室がある建物の鍵はいつでもこじ開けられた形跡がなく、またアラームは作動しなかった。アルバロ・リコ同学部長は、状況から見て金品目当ての犯行ではなく、GIAFの活動を阻止すべく行われた脅迫であると述べた。

【外交】

1 センディック副大統領のコンゴ民主共和国訪問

15日、センディック副大統領がコンゴ民主共和国を公式訪問しカビラ大統領と会談、同国の政治及びウルグアイが派兵している国連平和維持活動(MONUSCO)について意見交換を行った。また二国間関係についてセンディック副大統領から、脆弱状況に置かれている若年者への初等教育、トレーサビリティ、灌漑システム、収穫量の増大等農牧業における生産の発展、社会分野での公共政策、天然資源開発に関する規制等において協力が可能である旨申し出があった。これに対しカビラ大統領は、開発協力の深化及び通商緊密化の重要性で一致し、近くコンゴ(民)からウルグアイへ公式ミッションを派遣すると約束した。その他、コンゴ(民)上院議長、同国民議会議長、David Greesly 在コンゴ(民)国連特別代表との会談、同国東部に展開しているウルグアイ軍視察が行われた。

2 対ベネズエラ関係

- (1) 9日、ベネズエラ野党連合(MUD)の代表団がウルグアイを訪問、ニン・ノボア外相と会談した。会談でMUD代表団はベネズエラの現状について、食糧及び医薬品不足が深刻な状態にあると説明、また同国の政治状況に関し、同国議会で検討されている米州機構(OAS)民主主義憲章の適用及び政治犯への恩赦法制定の可能性について説明した。また10日、与党統一社会主義党(PSUV)代表団、在ウルグアイ・ベネズエラ大使ほかニン・ノボア外相と会談、同恩赦法に対する拒否の意向を

表明した。また2013, 14年にベネズエラで発生した暴力事件について, 同事件の犠牲者団体から, 死者40人, 負傷者800人を出した事件の責任は野党側にあり, 犠牲者の存在はマスメディアによって覆い隠されているとの説明があった。

- (2) 24日付エル・オブセルバドール紙によれば, ベネズエラはウルグアイ産乳製品の輸入に係る負債を約1億米ドル抱えている。15年7月, ウルグアイはベネズエラと通商・技術協力協定を結び, 同協定に基づいて乳製品を輸出した。協定署名当時バスケス大統領は, 輸出不振により危機に陥っているウルグアイの乳業を再活性化させる措置であると説明した。ベネズエラはまた, 乳製品以外にも医薬品, 獣医実験設備, 変圧器等の輸入に係る未済債務3, 000万米ドルを抱えている。ウルグアイ外務省はベネズエラ外務省に対し書面にて支払いを求めた。

3 ブラジル情勢に関する政府・与党の動き

- (1) 18日付当地エル・パイス紙は, ウルグアイ政府・与党がルセーフ大統領を支持する宣言を南米諸国連合(UNASUR)全体で発出すべく動いていると報じた。同紙によればバスケス大統領はUNASUR輪番議長として宣言決議案を作成, UNASUR加盟12カ国の回覧に付した。またニン・ノボア外相は伯軍が動員され基地に集結しているとの情報を在伯ウルグアイ大使館から入手し, 伯情勢を憂慮していると明らかにした。しかしながら同外相は, 現在のところ本件に関し意見表明はできないと述べた。更にムヒカ前大統領は17日, ブエノスアイレスにおいて「ルーラ前大統領の無実を信じるか」とのアルゼンチン人記者の質問に対し「ルーラについては無実だと思う」と回答しルーラ前大統領を擁護した。しかし他のブラジル労働者党(PT)指導者には言及しなかった。ムヒカ前大統領とルーラ前大統領は個人的に極めて親しいことで知られている。
- (2) 18日, ウルグアイ外務省及び与党拡大戦線(FA)はブラジル情勢に関しプレスリリースを発出し, ルセーフ政権を支持すると表明した。
- ア ウルグアイ外務省は, 現下のブラジルにおける政治的不安定化に憂慮の念を示しつつ, ルセーフ伯大統領への完全な支持を表明した。またウルグアイは内政不干渉原則とともに法治国家及び民主主義的価値を尊重・擁護すると述べ, 現在ブラジルで生じている対立が対話と民主的制度の枠内で解決されるであろうとの確信を表明した。
- イ FAは全国政治委員会名義で, ブラジルにおいて司法府, 政治セクター及びメディア責任者により引き起こされ進められている制度的不安定化の企図を拒否すると表明し, ルセーフ大統領, ルーラ前大統領及びPTに連帯の意を表した。

【社会】

8日午後3時ごろ、パイサンドゥ県市街地において、洋服販売店経営者でユダヤ教徒のダビッド・フレム(55歳)が教師でイスラム教徒のカルロス・オマール・ペラルタ・ロベス(35歳, イスラム名アブドゥラ・オマール)に包丁で背後から滅多刺しにされ病院に搬送されたが死亡した。背中での4, 5箇所への刺し傷が致命傷となった。その場に居合わせた21歳の被害者の息子も被害者を助けようとして犯人に刺され重傷を負ったが命に別状はない。犯人は通行人によって取り押さえられ, 警察へ引き渡された。

犯人は9日夜, 起訴された。犯人は5カ国語を話し, イスラム系過激主義の信奉者であることを公言, 自称「アルカイード」を名乗っている。犯人宅の捜索の結果, スペイン語版コーランやその他イスラム教に関係する物品が発見された。犯人はインターネットカフェにおいて暗殺ゲームをしている姿を度々目撃されており, ゲームの中でユダヤ人を標的にしていた。犯人はテコンドーの指導者でもある。犯行に使用された刃物は精肉店で使われるような刃渡り30センチのものであった。

在ウルグアイ・イスラエル大使は被害者へ哀悼の意を示すとともに犯行を非難した。

(了)